

春色の背割堤 満喫



花見客の目を楽しませた桜のトンネル

淀川河川公園背割堤地区の桜の開花に合わせて「令和5年背割堤さくらまつり」が3月25日〜4月6日に開催。約1・4キロメートルにもおよぶソメイヨシノが訪れる人の目を楽しませてくれました。

このまつりは、市や京都府、淀川河川事務所などで構成する実行委員会が主催。今年度は、桜の保全のほか、警備員やごみ処理の費用などに充てるため、入場の際に1人あたり100円の運営協力を募りました。

期間中は約220本ものソメイヨシノが作り出す桜のトンネルをひと目見ようと連日、多くの花見客が来訪。高さ約25メートル、さくらであい館展望塔から見える景色を写真に撮ったり、散策を楽し

さくらまつり

んだりしていました。また、近隣のおいしいものが集う「さくらマルシェ」やEポートによる川下り、有料席でくつろぎながら桜を愛でる「さくらビュープレミアムシート」などもあり、花見客は春のひとときを満喫していました。

さくらビュープレミアムシートでくつろぐ花見客



初めての給食を味わう児童（八幡小）



「全部食べた！明日も楽しみ」

4月17日、市内の小学校で新1年生の給食が始まり、児童は給食をおいしくうにほお張っていました。この日の献立は、鶏肉のからあげ、野菜の味噌汁、わかめご飯、牛乳でした。給食当番の児童は、真っ白のエプロンと三角巾を身に付けて、給食を受け取りに配膳室へ。人数分の食器や給食が入った給食缶の重みに驚きながらも、2人1組で声を掛け合い、教室まで運びました。

先生がよそったご飯やかずの入った器をお盆に載せて、お友達の席まで配膳。全員分の給食を運び終えたら、みんなで一緒に「いただきます！」。児童は給食を口いっぱいにはお張ると、お友達と顔を見合わせ、ほほ笑んでいました。

伊藤朝陽君(6)は、「おいしかったから、全部食べたい！明日も楽しみ」と話していました。

新小学1年生初めての給食

まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題などを紹介しています。身近な話題や、広報紙についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

市少年少女合唱団 結成45周年

感謝の歌声響く

4月16日、今年で結成45周年を迎える八幡市少年少女合唱団の「第42回定期発表会」が文化センター小ホールで行われ、団員8人が美しい歌声を披露しました。この発表会は、団員の練習の成果を発表するため毎年開催。この日のために、支えてくれた人へ感謝を伝えようと、練習を重ねてきました。

はじめに、団員はオリジナル音楽劇「星まつりの夜」を上演。迷子になったキツネの子が、友達に出会った。

後半は、この発表会をもって卒団するメンバー2人を中心に、思い入れのある「COSMOS」や「天までとどけ」など、計7曲を歌い上げると、会場から自然と拍手が加わるなど、一体感に包まれていました。



音楽劇で踊りながら歌う団員たち

今月のこの人

国籍超え 地域の架け橋に



グエン・トゥック・ユエンさん
令和5年度から多文化共生に向けて、外国人への制度周知や外国語の通訳を行う職員として市に勤務。ベトナムのダナン市出身、男山在住。

「八幡市の人はみんな優しく親切。まちが美しく、タケノコがおいしいところも好きです」と語るグエン・トゥック・ユエンさん。出身地のベトナム・ダナン市は港町で、観光地としても有名。多くの外国人と交流してきたユエンさんは、茶道や舞踊などの日本文化の魅力にひかれ、高校生の時に日本へ留学しました。

日本語学校や大学への在籍を経て、令和2年から八幡市で生活を始めたユエンさん。新型コロナが流行し、不安でいっぱいだったころ、子どもと公園で遊んでいる時に知り合った日本人のお母さんに、子育て支援センターやこども動物園を紹介して

もらい、「そこで出会った職員も熱心で優しく、市役所で働きたいと思うきっかけになった」と話します。「外国人も利用できる市の施設や制度の周知、さまざまな国の人がお互いの文化を理解できるような企画をしたい。国籍に関係なく、人と人をつなぐ架け橋になりたい」と、今後の抱負を笑顔で話していました。

本コーナーでは、市にゆかりのある人物や団体を紹介しています。詳しくは、市ホームページまたは秘書広報課へ。